

平成18年度第1回宇都宮市生涯学習推進懇談会議事録

開催日時 平成18年5月24日(水)午後2時～3時40分
開催場所 14A会議室
出席委員 26名(別紙のとおり)
会議の公開・非公開の別 公開
傍聴者 0名
議事

(1)報告事項

第2次生涯学習推進計画事業計画の進捗状況について
報告資料に基づき、平成17年度までの事業計画の進捗状況を説明した。

(2)協議事項

第2次生涯学習推進計画事業計画の見直しについて
事業計画見直しの考え方について説明し、意見交換した。

(3)その他

発言の要旨

(1)第2次生涯学習推進計画事業計画の進捗状況について

小山委員	評価についてではないが、子どものホームステイについて、テレビや新聞で見たほかの県のうまくいっている例で、静岡、秋田、山形だったと思うが、個人の家庭でなくもっと広い場所、お寺を借りて子どもの舞か何かを練習していくというのがあり、地域のものを受け継ぐために一定期間生活し、手伝ってくれるボランティアがいるということだった。例えば、自分の家で引き受けることを考えた場合、本音を言えば、地域の子どもを引き受けるのは、プライバシーの関係で外国人のほうが気が楽かと思う。確かに小学校4年生と中学校1年生で冒険活動センターとか5年生で臨海学校とか、同じ学年でやるというのはあるが、異年齢の子もたちがかわるというのではないので、そういう場があるといい。1週間くらい市などの施設で合宿し、そこから学校に通うというの聞いたことがある。宿泊の場所を考えると違った方向で展開すると、C評価とかではなく、よくなる可能性があるのではないか。
橋立会長	生涯学習について場を探していくことが大事なこと。市と公の間にある空間というのは市内にたくさんあると思う。
荒牧委員	評価のことで、「生かす」がC評価ということだが、この項目に関しては、行政としては今後とも難しいのではないかと、行政はそこまで踏み込まなくても、「学ぶ」を充実すればいいと思う。「生かす」

というのは、市が具体的に場を設けるのは非常に難しい、民間のいろいろなボランティアサークルとか民間活動をしているグループがある。そういうところと共催とかの形で民間活動をバックアップする。そういう態勢でのぞむと「生かす」に関してはいい結果が生まれる気がする。

卯柳委員 本市の生涯学習の体系として、「学ぶ」「生かす」「つなぐ」というのは、良い構想なので、それに習った充実をするのだから、バランスをとって特に評価の低いものについては、重点項目として一層引き上げるというもので、弱めていいんじゃないかというのでないと思う。

橋立会長 弱めるということではなく、一部を民間に信頼してゆだねるということで、そうするともっと大きくなっていくというものだと思う。

佐藤委員 場所の提供について、学習成果を生かすための場所が必要。市の公共施設は制限が多く、そういうところを見直していただければ有難い。子どもフェスタのとき、いのちの学習の教材として動物をおかせてほしいといったら断られたことがある。そういうときに配慮いただけたらと思う。

事務局 生涯学習センターなどは、減免の措置が取られている。体育館の例は、施設の制限もあると思うが、市の事業でもあり、よく話をすれば、何とかなったと思う。担当課に投げかけてみる。

(2) 第2次生涯学習推進計画事業計画の見直しについて

橋立会長 生涯学習の世界が内輪のサークル化して大きな展開ができないのではということで、一般誌に広告を出すとかで、今サークルに入っていない層に語りかけるとするのが重要だと話したが、人材をどう生かすとか、活動したい人がたくさんいるとか、そういうことをまとめて広報をするといったような新しい視点が必要だと思う。課題を個別でなく、まとめてこんなことができないかというような意見を出していただきたい。

半貫委員 「つなぐ」の目標値がないということ、文部科学省はかつて生涯学習と社会教育と二つやっていたと思うが、生涯学習を広くといったときに、生涯学習と社会教育を分けて考えているために、つなぐというところが欠けてくる。広報についても二つやらないで一つの方がわかりやすいのでないか。

事務局	<p>目標値については、「つなぐ」に関するものは計画策定時に定めていないため、把握する指標は今のところもっていない。生涯学習と社会教育については、市では、生涯学習課で社会教育もやっている。市民ニーズはカルチャー的な生き甲斐といったものが多いが、行政として社会の要請としてやらなければならないものは社会教育になりつつある。一緒にやることでつなぐというところがスムーズになるというのは確かだと思うので、PRの仕方についても改善の余地はある。</p>
半貫委員	<p>文部科学省のレベルでは生涯学習と社会教育を分けて考えているのか。</p>
佐々木委員	<p>文部科学省では基本的には分けている。生涯教育と生涯学習も分けて考えるべきもの。生涯教育といったときは教育を提供する側の論理ですすめられる考え方。生涯学習は、学ぶ側一人ひとりの立場で考える考え方。誤解を受けやすいが、生涯教育といった場合は、生涯にわたって教育を受ける権利があると捉えたらいい。行政としてやるべきことは、生涯学習する人が、生涯にわたって教育を受けたいときに受けられる条件整備をすること。</p>
花田委員	<p>地域の懇談会があり生涯学習の話が出たところ、だいたい地域の人たちは、生涯学習はある程度のところまでできているのではないかと。これからは高齢化社会で誰もが迎える人生の終末をどうすべきか、どう生きていくべきかということを生涯学習の一つに加えてはどうかという意見があった。様々な人間関係がある中で孤独に死んでいく自分の行く末の迷いをもっている。そういう高齢者の課題の部分を生涯学習として一步踏み込めないのかということ考えているがどうか。</p>
橋立会長	<p>宇都宮市でも高齢化が進んでおり、特にニュータウンでは2代目3代目が住まないため高齢化している。生涯学習の分野でそういう問題に対処できないかというのは大きな問題の一つ。</p>
卯柳委員	<p>本市では学校評議員制度というのがあって、学外からの意見を受けて学校経営を反省したり新しいものに取り組んでいるが、今年から評議員制度をなくして学校の教育を地域の特色を出して取り組むようなシステムにかわるのか。</p>
事務局	<p>地域と一体となって特色ある学校づくりを進めようということと、地域の教育力や家庭の教育力を高めようということで、魅力ある学</p>

	校づくり地域協議会を平成20年度までに80校すべてに設置するというので、今年度11校で開始される。
橋立会長	今のはなしは事業計画に書かれていくものか。
事務局	今回の事業計画では、地域の教育力や学校を中心としたネットワークというものを重点課題として認識した上で取り入れていく。
小山委員	要望だが、地域の教育力とか学校を場として地域と連携した活動といったとき、校長は2年か3年で移動してしまう。せっかく慣れてきた頃にかわってしまうのが現状で、学校は校長でかなり変わる。本当にやるのなら校長の任期を長くしてはと思う。
小島委員	今年度から、学校は教頭が副校長になったと孫から聞いて初めて知ったが、地域としては全然知らされていない。なぜ副校長にしたのか、地域にどうPRしているのか。
事務局	わかる範囲だが、校長の裁量権人事権については中核市におろすよう働きかけをしており、任期については、地域との関係なども十分に考慮して適正な人事異動につとめる。副校長についてPRはあまりされていないかと思う。校長の代理を教頭がもつというのはかわらないが、これから決裁権が教頭に大きくおりにいくこともあり、教頭というよりは副校長とした方がよいだろうということで改正したと聞いている。
小島委員	子どもだけでなく、地域みんなで呼べるような体制ができないとおかしい。
細谷委員	家庭教育を学ばせるということは、言葉では簡単だが非常に難しいこと。いかに子どもを育てる親を学ばせるかということを考えるべき。課題の中にも食育というのに触れていない。食育は親、親ができていないから子どももそうなる。食育の原点はおふくろの味の継承だと思う。親子で食育というのを生涯学習の場に取り入れていくことが家庭教育の充実にもつながるし、地域の教育というのにもつながる。
事務局	今回は重点課題の設定までのところを示している。これらについてご意見をいただき、次回には具体的事業をお示ししたい。
佐々木委員	生涯学習の考え方は学校教育、家庭教育、社会教育と縦割りになっているものをつなごうとしているもの。こういう場には教育の全課長が出るべきで、今回の計画は事実上社会教育の計画と認識してい

る。情報提供だが、「学ぶ」ことと「生かす」ことは関連性が深い。「学ぶ」ことをもっと充実すれば「生かす」ことにも繋がっていくという調査結果が出た。

- 磐井委員 家庭教育のところで、赤ちゃんが生まれたという乳児のところで一つ線が引けるのではないかと思う。乳児期と幼児期は分けてほしいという考えをもっている。乳児期はほぼ大人の関わりで育つ時期。こういう点で家庭で子どもが生まれたらそこを出発点として教育を始めたらいいと思う。保健ですか福祉ですか教育ですかはあると思うが、義務的でもいいから何かを教えてほしいと思う。
- 橋立会長 大学を生涯学習センターにできないかと思っている。大学には先生もいるし施設もあるし、資料もそろっている。宇都宮大学では市との連携が始まっているとのことだが、ほかの大学でも、地域の基点にしてもっと間口を広げることが可能かと思う。そういう官と民の間を作っていくことができる。
- 磯田委員 今市の悲惨な事件をきっかけにして、通学路の安全確保のボランティア活動が進んでいる。地域の安全確保の視点からも教育というのも考えていく必要がある。
- 橋立会長 ヨーロッパの地域クラブは、スポーツ文化にしても地域で活動する。そういう方向を目指すというのも一つではある。子どもを見る目が増えるかと思う。
- 山野井委員 地域の多くの大人が関わるのが重要というのはそうだが、大人とは現実に高齢者。子どもと年寄りの間の中年がいない。地域でスポーツ大会をやっても50、60の人たちが多くて中年が出てこない。最近学校の運動会と地域の運動会が一つになりつつある。今後の具体的な方策を考えるとそういうものも考えられるといい。パソコンについては、前に学んでそして教えたくなくなったというところで活動になっている。
- 村松委員 評価のはなしに関連するが、「学ぶ」ではA評価が増えているがC評価も増えてきている。「つなぐ」というのが事業としてうまくいっていて、次が「学ぶ」、そして「生かす」ということになると思う。「学ぶ」でもA評価が増えているが、C評価も増えているのでその要因を調べたらいい。「生かす」をどうやって盛り返すかといったときに、中でもA評価になっているものもあるので、成功例をモデルにして、広げていくという形で事業計画を作ったらいいと感じた。

橋立会長	学ぶと生かすは密接に連携しているということだが、まだ「学ぶ」が足りなくてもっと充実すると、ある時期から「生かす」というのも増えてくるというものなのか。
佐々木委員	調査では学べば学ぶほど生かす意欲が出てくると出ているが、現実には生かす場がない。着地点の問題があって生涯学習の範疇を超えていて、どんなまちを作るかということになっていくと思う。生涯学習とまちづくりはつなげて考えている。
細谷委員	まず学ぶことでいいと思う。この目標を成し遂げたら生涯学習は大成功だと思う。学びたいものニーズを捉えたものややっていくことだと思う。
藤井委員	校長の任期が短いという話が出たが、長いという例で地域の婦人会とか青少年育成会は年齢が高い。後継者難でもあるし役職に就くとおりたくないという話も聞いたことがある。長過ぎても困る感じた。今日、国会の中継で教育基本法の家庭教育の質問がされていて、生涯学習も同じだと思うが、活動できる人は心配なく、出てこれない方や参加できない方、関心がない方にいかに知らせ、成果を上げるようなことを論じていかなければならないのではというものだった。そういうところに着眼しなければならないと思う。
石河委員	コーディネーターの問題で、市民活動の相談が受けられる人とあるが、何が学べて何が教えられるかというところをつなぐ相談コーナーがないのではないかとということで、そういうところを上手に育てていただきたい。
佐藤委員	学ぶことに関して比較的年齢層が低い方の対象が多い。退職した人が多い会議に出たが、学ぶことに意欲的だった。そういう対象の学びの場もあればいい。
石嶋委員	食育が大事だという話が出たが、幼児教育の現場では、食べること寝ること遊ぶことをやっている。調査をしたことがあるが、朝食を食べないで幼稚園に来る子や夜一人で食べる子が何パーセントかいる。遊ぶのも一人というのが現状。家庭教育を考えるとそういうところをつかんでいく必要がある。親を教育することが重要だとはわかっているが難しい。親に強くいえばそっぽを向かれてしまい、何でもいいとなると福祉になってしまう。まちをつくるにしても生涯学習にしても、基本は幼児教育、子どもをしっかり教育して人間力を向上させるというのが重要だと思う。
宮田委員	市内のほとんどの学校に地域の方が入って読み聞かせをしている。

地域の人たちは学んだことを生かす場としての学校があるが、読み聞かせにしてもただ読めばいいという訳ではなく、どんな本を読めばいいかというのもあり、ボランティアの人がそういうことを学ぶ場が少ない。学んだ人は意欲のある人である状況なので、今、市ではブックスタートが取りあげられているが、読書ボランティアの学ぶ場の確保も大切。学校図書館と市立図書館の連携で学校に市立図書館の本が入るようになって大変いいことだと思っている。学校側も地域のボランティアを受け入れられるコーディネートする人が必要だと感じている。この点も具体的に考えていただきたい。

橋立会長 学ぶから生かすへとステップアップする講座があればいいと思う。

小島委員 重点課題で国際化を取り上げられているが、具体的にどうなるかというのはあるが、今までになかったのでどんなのが取り上げられるか期待している。宇都宮市では、在住外国人の日本語学習の機会提供やホームステイの受け入れのための英語学習の場というものもない。国際交流協会では細々とやっているが市でやるべきこととして申し入れしている。国際化の進展に伴う生涯学習の一環としてぜひ取り上げていただきたい。

山本委員 シルバー大学を卒業すると地域に入って成果を広めてほしいとなっているので本人もそう思っているのだが、地域に入っていけないということ。地域に入るには常々地域で活動していないと、シルバー大を出たからといって地域には入れない現実がある。場所の問題では、団塊の世代ということで生涯学習に取り組む人が増えるが受け入れる体制ができていくのかというのが重要。地域教育力アップの機会を生み出すのが難しい。場所が不足している。こういうところを検討課題に加えてほしい。

橋立会長 頑張っている地域を顕彰してそして広げる事業ができればいい。一律的にお金をばらまくようなものは対応できなくなると思う。

荒牧委員 施設に関して、利用時間を少し延長できないか。勤労者は夜7時頃からしか活動できない。お金はかかるからできないのだと思うが、できたらすごいことだと思う。

磯田委員 お寺を活用したらどうか。お寺によっては人生塾などをやっているところもある。場所としてもいいところだと思うしお坊さんも非常にいい話をする。

小山委員 前に役所から人材登録をしてくれないかというのがきたが、フォーマットが役所の縦割り行政っぽく主婦としていろいろ活動してい

る者には使いにくいものだった。専門はなくても人間的に素晴らしい人はたくさんいるので、発想を変えた登録の仕方を考えないと拾える人材も拾えないかと思う。

大矢委員

地元で子どもの見守りボランティアの方を見て、たいしたもんだと思うのは、リタイヤした人が多いが何人が集まるとすぐにリーダーが決まって役割分担してすぐやりましようとなる。昔は子どもでも親分がいて遊びでもすぐ決まった。そういうことが我々の年代ではまだできるが、もっと下になるとどうなるかと危惧している。どこでどうしたらいいのか、市P連としてやっても片手落ち。学校・家庭・地域の連携といっても具体的にどうすればいいか答えは出てこないのが現実。年配の世代が大人としてどうしたらいいか教えてくれる場が必要で、市P連でも議論しているが事業企画で悩んでいるところ。ご助言をいただければと思う。

佐々木委員

キャッチフレーズでいえば、老若共同参画社会。子どもたちは地域で生きている人をちゃんと見ている。高校生がどういう人を尊敬するかと聞いたところでは、地域で黙々とゴミ拾いをしている高齢者に感動するというのが多い。地域で当たり前のように高齢者が活躍したり、生きていくことが隠れた教育力であり、生き方の後ろ姿を見せるまちづくりというような目標を置くことで見えない教育力が出てくる。

橋立会長

今日は非常に多岐な話題について意見を頂戴したが次回は重点課題に従って具体的な事業案が出てくるので、より具体的な議論になると思うのでよろしくお願いします。

宇都宮市生涯学習推進懇談会出席者名簿（平成18年5月24日）

	氏名	該当号	備考
1	半貫 光芳	1	宇都宮市議会議員
2	小林 秀明	1	宇都宮市議会議員
3	南木 清一	1	宇都宮市議会議員
4	藤井 弘一	1	宇都宮市議会議員
5	山本 正人	1	宇都宮市議会議員
6	細谷 美夫	1	宇都宮市議会議員
7	橋立 達夫	2	作新学院大学教授
8	佐々木 英和	2	宇都宮大学助教授
9	宮田 直美	2	手づくり絵本の会「ポコアポコ」代表
10	和田 宏	3	NHK文化センター宇都宮支社長
11	卯柳 玄重	3	宇都宮市生涯学習センター運営審議会副委員長
12	石嶋 勇	3	宇都宮地区幼稚園連合会長
13	村松 君雄	3	宇都宮大学理事（総務担当）
14	砂長 勉	4	連合栃木宇河地域協議会事務局長
15	小島 延介	4	宇都宮市国際交流協会会長
16	山野井 暉	4	宇都宮市体育協会会長
17	荒井 宗明	4	宇都宮市文化協会常任理事
18	花田 静子	4	宇都宮商工会議所女性部副会長
19	磐井 君枝	4	宇都宮市女性団体連絡協議副会長
20	佐藤 妙子	4	宇都宮市青少年団体連絡協議会副会長
21	松本カネ子	4	宇都宮ボランティア協会会長
22	大矢 裕啓	4	宇都宮市PTA連合会会長
23	荒牧 秀雄	4	宇都宮モラロジ - 事務所副代表
24	磯田 斌夫	5	公募委員
25	小山 涼子	5	公募委員
26	石河 正典	5	公募委員

：会長， ：副会長

